自己評価　（2階ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもある「生活作り」について考えていく中で、住み慣れた地域で、資源を活用する必要性について、職員間で共有できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やコンビニへの買い物の他にも、定期的に行っているスーパーへの買い物も入所者を誘い一緒に行っている。また、訪問販売の依頼や、個別の外出についても定期的に行い、施設内の関係だけにならないようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へは、広報誌や運営推進会議の会議録を役所に置かせてもらい、閲覧できる程度となっているため、今後行事などを通じ、地域の方と関われる機会を増やし、認知症の人の理解や支援方法など話せる環境を作っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族に対してはアンケートを行い、興味ある項目を事前に調査して議題を設定している。会議録や使用した資料については、家族へ配布し、意見をいただける体制作りに努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護支援専門員連絡会やグループホーム連絡会、運営推進会議の連絡、法令に関すること、その他通達事項など、こまめに連絡を取り合うよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在やむを得ず行っている拘束の説明は行っているが、その他どのようなことが拘束になるのか、なぜ拘束がいけないのかについては、今後会議などを利用し理解を深める取り組みをしていきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	予防するためにも、ユニットリーダーを中心に、職員との話し合いの場を設け、精神面でのケアを行っている。虐待について、会議などを利用し、学べる機会を作って行きたい。		

グループホームはすぬま　自己評価（2階ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、会議などを利用し、管理者、職員ともに学べる機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書かれている項目ついての説明を一つ一つ時間をかけ行い、納得していただけるよう努めている。また、事前の面会の際にも、不安、疑問に対し、理解、納得していただいたうえで、契約を行う事が出来るよう意識している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者として職員からの要望、提案等話せる関係作りを意識しながら、ユニットリーダー中心に行う話し合いの中でも、運営に関する疑問、質問、不満等が聞かれた時は、管理者も加わった話し合いを行い、必要に応じ代表者と話した内容を職員に伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者として職員からの要望、提案等話せる関係作りを意識しながら、ユニットリーダー中心に行う話し合いの中でも、運営に関する疑問、質問、不満等が聞かれた時は、管理者も加わった話し合いを行い、必要に応じ代表者と話した内容を職員に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、努力や勤務態度など考慮し、ベースアップを行っている。また、職員からの提案について、どのようにしたら実現できるかを一緒に考えることにより、やりがいや向上心をもてるよう環境をサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護マニュアルを基に、介護技術の勉強会を行い、基礎能力向上に努めている。また、日頃のケアについての助言、指導は、ユニットリーダーを中心に行う話し合いの場で、事前に1人1人の目標設定を行い伝えていくようにしている。今後外部研修も検討して行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員連絡会やグループホーム連絡会の参加。今年は年3回市内の地域密着型サービススタッフを対象に行う勉強会で、講師として質の向上への取り組みを行っている。また、年末には忘年会も行い、交流できる環境を考えている。		

グループホームはすぬま　自己評価（2階ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集に力を入れ、職員が必ず確認出来るようにしている。また、初期については、ケース記録へ些細な事でも記入し、関りの場を多く設け、知り得た情報を職員間で共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み後から、家族には広報誌を送らせていただき、ホーム内での活動を知っていただけるようにしている。実際入所となる際にも、はすぬまの方針を説明したうえで、抱えている不安、疑問等を話せる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時や、ご家族からの情報をもとに、資源で有効に活用できるものはないか検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まず、「本人はどうしたいのか」を考え、意思の確認を行いながら、本人が主体となれる関係作り、声掛け等を意識するように職員に伝え、対等な関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	長年生活を共にしてきたことで生まれる本人への想いや意向を可能な限りホーム内での生活に反映させていけるように努め、お互いで支えあう関係が築けるよう意識している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の訪問程度となっているため、今後こちらから手紙を送る、訪ねるなど、ご家族の意向も含めて検討していきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	あえて入所者同士が関りを持つ場面を意識した関係作り、声掛けを大切にしている。 （食事の声掛け、配膳、入所者同士の会話ができるような環境作り等）		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となってしまった方に関して、施設や病院等へご家族からの了解が得られた場合面会に行っていたが、現在は行えていないため、今後関係を継続できるよう連絡をとっていきたい。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人はどうしたいのか」ということを考えた支援を心掛けている。また、意思表示の困難な方には、「この人はこう思うのではないか」と考え、本人主体となれるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の段階でも、生活歴、生活様式などの情報収集に努めるが、その後も本人、ご家族などから情報交換を行いながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	可能な限りスタッフの都合で1日の過ごし方を決めてしまわないように、その日、その時の状態を把握しながら、無理強いにならないよう本人の意思を確認しながらの生活支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットリーダー、担当者を中心に、本人にとっての必要なことの把握に努め、随時支援に反映できるよう話し合いの場を設け、必要に応じ、ご家族、かかりつけ医などに相談している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録へは、その時の様子など細かく記入していけるよう努めている。情報を共有しやすいよう大切な事については、赤字、赤線を使い工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在出来ていない。今後可能と思われることを探していき、取り組めるようにしていきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパー、コンビニ、レストラン、行楽地等本人、または家族の意向をもとに資源活用を心掛けている。今後もより意向に沿った資源を提供できるように努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医と継続するかどうかを確認し、希望される医療機関への受診を行えるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時に医師、看護士へ状態の変化や相談点などを事前にまとめ、助言などは職員間で共有できるよう記録に残している。また、電話での相談、助言についても行えるよう関係作りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、なるべく毎日（遠方でない限り）面会に行ける環境を作り、関係が途切れないよう意識をする一方で、退院までの流れを病院関係者と確認しながら家族も含めて意向を伝えていけるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対し、今後どのような形を望んでいるかを確認したうえで、看取りに関する指針に同意していただけるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について勉強会を行ったり、連絡先を掲示しているが、実際起こってしまったときに対応できるよう、今後も学べる機会を増やしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回（内1回消防署立会いのもと）日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。ただ、時間が空いてしまったり、その日の出勤者でないと訓練に参加できないこともあるため、日頃から意識してもらえる取り組みを行っていきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	過去の生活歴や性格、入所されてからの様子などを踏まえて、日々の生活のなかで関りをもつ意識をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「本人はどうしたいのか」ということを考えた支援を心掛けている。また、意思表示の困難な方には、「この人はこう思うのではないか」と考え、本人主体となれるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「本人はどうしたいのか」を確認する際、疑問形で聞く、「はい、いいえ」で答えられるように聞くなど、本人の状態を考えた声掛けを意識している。また、自ら何かを行ってもらえるよう（食事作り、掃除等）無理強いにならないよう意識した声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口元や衣類の汚れ、髭剃り、衣類の乱れなどは意識している。それ以外のところでは、化粧など時々しか行えていないので、楽しみに繋がる支援を行っていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	徐々にメニュー決めや調理、買い物、片付けなど入所者と一緒に行えるようになってきている。今後も環境を整え行っていきたい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない方には、ケース記録に量を記入し把握に努めている。メニューは重ならないよう、入所者から提案があった場合、「明日にしない？」など話しながらバランスを調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝･夕に必ず口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。また、訪問歯科と提携し、随時相談、往診を行ってもらえるようにしている。		

グループホームはすぬま　自己評価（2階ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄間隔、トイレへ行きたいサインを共有している。また、変化が見られた場合、随時検討を行い、日々の支援に取り入れていけるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ、リンゴ、ヨーグルトなど、排便を促す食べ物を意識して付け加えている。また、体を動かす意識を持ち、動くことが難しい方には、白湯など温まるものを意識して接種していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる環境にはなっているが、時間帯は主に昼過ぎから夕方にかけてとなっている。（1名は就床前に行っている）こちらの都合で急がせることがなるべくないよう、会話を楽しみながら行える環境作りを心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中自室で過ごすなど、本人のペースを大切にしながらも、リビングでは、孤立することが少なくなるよう、会話や一緒に行ってもらえることを意識し、夜間安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、随時新しいものをケース記録に入れ、確認できるようにしている。薬に変更があった場合も記録へ残し、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タバコは好きな時に吸えるような環境作りを行っている。また、ホーム内での催しや個別の外出についても、定期的ではあるが、力を入れて行っている。役割ある生活については、今後も引き続き意識してもらえるよう努めていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ある程度計画的な外出となっている。今後その日の希望で外出していけるような支援に努め、家族、地域の方々からも協力が得られるよう関係を作っていきたい。		

グループホームはすぬま　自己評価（2階ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ、所持してもらっているが、今現在出来ていない方へも、家族からの同意が得られたうえで、所持できるような支援を行っていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届いた手紙については本人に渡しているが、本人からについては、訴えがないこともあり、年始の年賀状程度となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの装飾や、外出後の写真の掲示など、職員との会話を増やせるような空間作りを意識して行っている。また、清掃箇所を分担し、清潔保持にも努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの活用以外にも、事務所に喫煙所を設け、タバコを吸う入所者、職員との関り、気の合う入所者同士の関りも意識している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時になじみのものを可能な限りいれてもらえるようにしている。不快とならないよう意識しながら、心地よい空間となるようにしていきたい。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造上リスクがある部分を理解しつつ、1人1人の状態に応じた声掛けを行い、必要以上に介入しない支援や声掛けを行い、少しでも自立した生活が送れるよう今後も心掛けていく。		